

認知症地域支援ネットワーク

～つながって支える～ 

発行：京都市保健福祉局長寿社会部長寿福祉課 電話：075(251)1106 平成26年11月

朝夕めっきり冷え込む季節となりましたが、皆さんお変わりございませんか？

今回のニュースでは、認知症の人やその家族を支援するための“ネットワーク”を取り上げてみました。

認知症の人やその家族を、住み慣れた地域で支えるには、地域全体での支援が不可欠です。

今回は、医療と介護の連携に焦点をあて、京都市内で活動している2つの地域ネットワークをご紹介します。一つは認知症も含めた医療、介護、福祉の連携にかねてより取り組んできた「さきょう認知症を考える会」。もう一つは、2つの区の関係者が3つの地区医師会と連携をしている「北区・上京区認知症サポートネットワーク連絡会」です。

発足のきっかけから今後の課題まで、取材した様々な情報をご紹介します。

その1

さきょう認知症を考える会



発足時期とその経緯

【発足】平成20年度

【経緯】平成4年に“保健・福祉・医療のそれぞれの職種から平等な立場でもの言える会”として

「左京区高齢者地域ケア連絡協議会」(現、「左京区地域ケア連絡協議会」)が発足。

「さきょう認知症を考える会」は、その専門部会の1つとして設置されました。

その立ち上げの中心となったのは医師、福祉事務所、高齢サポートで、次の3つの活動を行っていました。

(1)と(3)が、現在の“高齢者にやさしい店”の活動につながっています。現在は実行委員会で運営しています。



- (1) 認知症あんしんサポーターの養成
- (2) 徘徊 SOS ネットワークの再構築
- (3) 商店街の活性化と絡めた居場所づくり

さきょう認知症を考える会の主な構成団体

※内容等により参加メンバーの入れ替えがあります。

【医療】・左京医師会 ・左京歯科医師会
・重度認知症患者デイケア看護師
(北山通ソウクリニック所属)

【介護】・左京区の高齢サポート

【行政他】・左京福祉事務所
・左京区役所 地域力推進室
(まちづくりアドバイザー)
・左京区社会福祉協議会
・京都市長寿すこやかセンター

【当事者団体】・認知症の人と家族の会京都府支部

左京区地域ケア連絡協議会・運営協議会

左京区地域ケア連絡協議会・運営委員会

地域包括支援センター会議

事業者連絡協議会

ブロック別地域ケア会議

事務局会議

さきょう認知症を考える会

北部問題検討部会

障害分野との連携部会

地域力・ネットワーク検討部会

制度にのらないサービス検討部会

転倒予防部会

主な活動

ワンコイン学習会

- ・専門職向けの学習会を開催（年1回）

区民ふれあいまつり

- ・ふれあい祭りのコーナーでの、市民向けの啓発活動
今年度は、もの忘れチェックと相談を実施

高齢者にやさしい店



詳細は左京区役所HPで公開されています。

- ① “高齢者にやさしい店” 登録説明会の開催（年2回）
説明会は認知症あんしんサポーター養成講座を兼ねて開催
- ② 登録の受付
店長もしくは店員の1割以上が①を受講した店舗が申請可能
- ③ 登録店に「宣言文」と「ステッカー」「缶バッジ」を配布
- ④ 「宣言文」と「ステッカー」を店舗に掲示

その他

- （平成23年度から実施）
- ・認知症かかりつけ医リストの作成と、左京医師会のHPでの公開
 - ・高齢サポートが実施する徘徊模擬訓練への協力

連携のポイントとなっていることは？

- 全体を見渡せる「左京区地域ケア連絡協議会」の存在
⇒活動内容や時期が、他の活動と重ならないような計画立案と、振り分けができます。
- ⇒「さきょう認知症を考える会」だけでは解決できない

課題を、「左京区地域ケア連絡協議会」全体で検討したり、他のプロジェクトで検討することもできます。

- メンバーが同じ目線で話し合える世話人会の開催（2カ月に1回）
- “動ける人がやる”のではなく、人事異動があっても当初に決めた役割を後任者が引き継いでいます。



高齢者にやさしい店の登録説明会の様子

- ・メンバーが、それぞれの役割を担うことで成長でき、また参加することで意見も出せます。
- ・一部の人に負担とノウハウが偏りません。

活動で変化したことや、気づいたことは？

- “高齢者にやさしい店”登録店舗から、高齢サポートに直接連絡が入るようになりました。
- 活動が定例化することで、負担感が少なくなっています。

“窓口紹介”だけでは出会えなかったかもしれない人にも、支援を届けられるようになりました。

今後の目標は？

【徘徊模擬訓練】「さきょう認知症を考える会」では、現在、左京区内の高齢サポートが行っている徘徊模擬訓練に“協力”という形で関わっていますが、圏域内で収まらないのが徘徊なので、会全体でも取り組んでいければと思います。

【左京区内の困難事例の勉強会】地域ケア会議にもつながりますが、左京区内で生活するときどのような課題があるのか事例を通して振り返り、地域の受け皿や地域特性について考えられるような学習会ができればと考えています。

【他地域との交流】他地域との交流では多くのヒントをもらうことができます。これからもネットワーク同士の交流で学びを深めたいと思います。



皆さんに一言

左京の場合は、発足当初から携わってこられた方々の努力があったからこそ今があると思っています。ネットワークづくりは、地域によって進め方が違いますので、お互いに情報交換をしていきましょう。

お問い合わせは？

「さきょう認知症を考える会」についてもっと知りたい方は、高齢サポート・白川の大西さんまでお問い合わせください。

その2

北区・上京区認知症サポートネットワーク連絡会



発足時期と、その経緯

【発足】平成24年度

【経緯】もの忘れの相談が増加していく中で、“相談に来た人はもちろん、そこにたどり着けない人たちをも支援できるネットワークを自分たちの手で作ろう”と、高齢サポートが中心となって関係者に声をかけ、立ち上げました。目的は、医療と介護、生活を結ぶシステムを構築することです。

取材協力者

高齢サポート・紫竹
センター長 小畑さん

北区・上京区認知症サポートネットワーク連絡会の構成団体

- 【医療】
- ・京都北医師会
 - ・京都市西陣医師会
 - ・上京東部医師会
 - ・京都府立医科大学附属病院
認知症疾患医療センター
 - ・京都北薬剤師会
 - ・京都市域京都府地域リハビリテーション
支援センター
 - ・京都府作業療法士会



北区・上京区の関係者が一緒に取り組むことで、2つの行政区にまたがった3医師会との連携をとりやすくしています。

- 【介護】
- ・北区、上京区の高齢サポート
 - ・北区、上京区の居宅介護支援事業者連絡会
 - ・京都地域密着型サービス事業所協議会
 - ・北区、上京区の地域介護予防推進センター

【当事者団体】・認知症の人と家族の会京都府支部

- 【行政他】
- ・北区、上京区福祉事務所
 - ・北区、上京区社会福祉協議会

主な活動 (平成25～26年度の取組)

4つのプロジェクトに分かれて事業を進めています。

ケアマネジャー等介護職向け講習会では、専門医も参加した“模擬担当者会議”も行われました。



認知症に関する学習・啓発活動

- ・講習会の開催
- ・地域支援者向け
 - ・医師・医療スタッフ向け
 - ・ケアマネジャー等介護職員向け

認知症相談対応マニュアル

- ・マニュアルの作成と研修の実施
・北区役所、上京区役所HPでのマニュアルの公開

権利擁護と安全にかかる課題

- ・権利擁護ネットワーク活動
・徘徊搜索ネットワークの構築と活動
※北区と上京区に分かれて活動

北区・上京区認知症等カンファレンス

- ・認知症等の事例についてカンファレンスを実施(月1回)
・現在は、医師と専門職合わせて40名以上が参加

(平成24年度から実施) もの忘れ相談医リストの作成と、北区、上京区役所HPでの公開

連携のポイントとなっていることは？

- プロジェクトに分かれて事業を実施 ⇒特定の団体への負担集中や、関係者間の温度差を少なくできます。
- 行政が事務局になっている ⇒関係機関からの信頼を得やすくなりました。
- 国のオレンジプランや、京都式オレンジプランが出された ⇒目指すべき目標が明確になりました。

自分たちが行っていることの、地域での位置づけができ、関係者が共通言語で語れるようになったと感じています。



活動で変化したことや、気づいたことは？

- 職員の対応力が向上した ⇒プロジェクトを担当することで成長できます。
- 北区、上京区の資源や力を結集できる ⇒お互いの地域の資源や力を活用することができます。
- 関係者間の連携が進んだ ⇒認知症の人を医療につなげるルートが見えてきました。
- 民生委員や老人福祉員から、直接相談が入るようになりました。



地域の方が、細やかな見守りをして下さっていることもわかりました。

今後の目標は？

【地域での実践】これまで積み上げてきたものを、地域での実践的な活動につなげていきたいと思います。

- そのために…
- ①達成可能な1年ごとの目標をみんなで共有し、
 - ②目に見える形のものを作って、
 - ③日常業務に活かす

【26年度の活動目標】

- ①講習会の継続
- ②北区・上京区認知症等カンファレンスの継続
- ③「おでかけ安心事業」（行方不明事故に対する予防的な取組の継続）
- ④居場所づくり（医療機関・介護予防推進センター・小規模多機能型居宅介護事業所など、多様な場所での居場所づくりの推進）

【最終目標は…】

北区・上京区で認知症を生きる人の支援を実践でき、支えられるチームをつくることです。

皆さんに一言

楽しくやりましょう！



お問い合わせは？

「北区・上京区認知症サポートネットワーク連絡会」についてもっと知りたい方は、高齢サポート・紫竹の小畑さんまでお問い合わせください。

まとめ

今回は、医療と介護の連携に焦点をあてて2つのネットワークをご紹介しましたが、この他にも高齢サポートは、一人の人を支えるための個別支援のネットワークや、高齢者の権利擁護のためのネットワーク、見守りSOSネットワーク等の構築に、日々尽力されているかと思えます。

また、地域全体に目を移すと、地縁や職縁でのつながりから、子育て支援や趣味活動、まちづくりや防災といった社会的な活動まで、地域には実に様々な結びつきがあることに気がつきます。

ネットワークは外部のネットワークとつながることで活性化するとも言われます。地域をじっくりと見渡せば、手をつなげられそうなネットワークが見つかるかもしれません。



編集後記

今回ご紹介した、認知症の人やその家族を支えるためのネットワーク以外にも、介護保険サービス事業所が中心になって立ち上げたネットワークや、地域の自治会が立ち上げたネットワーク等々、市内では、地域の強みを生かした様々なネットワークが活動しています。

また、新たに立ち上げるだけでなく、既存のネットワークを活かして発展させたり、協働する形で活動されている地域もあるかと思えます。

いずれにしても、ネットワークはそれ自体が、地域の、そして個人の貴重な“資源”であり“力”でもあると改めて感じた取材でした。

取材の中のご意見にもありましたが、ネットワーク間で情報交換し合ったり、学び合ったりできる場や仕組みを共に作れたらと常々感じております。

最近は見守りSOSネットワークづくりの話題も上ってきます。それらの活動の情報についても、紙面で、あるいは各地域に出向いて共有していきたいと思っておりますので、皆様からのご意見、ご感想、情報提供を心よりお待ちしております。

認知症地域支援推進員 清水